

## 1年生工業技術基礎(木材加工)の授業

1年生では1回目の授業で、プロの大工の棟梁から、大工道具の調整と扱い方の基本について学びます。たくさんある大工道具それぞれに、丁寧に手入れを行うことが、良い家づくりにつながることを学びます。



長い木材には、「墨つぼの糸」を使って、墨を打ちます。棟梁が行うと、打つときに良い音がします。簡単そうに見えましたが、実際に自分で行うと難しいことがわかります。



↑ 棟梁の墨打ち実演



木材に、寸法を書いていくために必要な「墨差し」を調整することで、「自分の使う道具は、自らが調整する」基本を学びます。

# 1年 工業技術基礎 「木材加工」

「腰掛けあり継ぎ」をつくることを通して、大工道具の扱い方を学びます。  
大工の棟梁から、墨付けの方法、加工するときの道具の使い方を学びます。



木をよく見て、前回学んだ、墨付けを行います。棟梁の手元に注目です。



腰掛け蟻継ぎ組んだとき



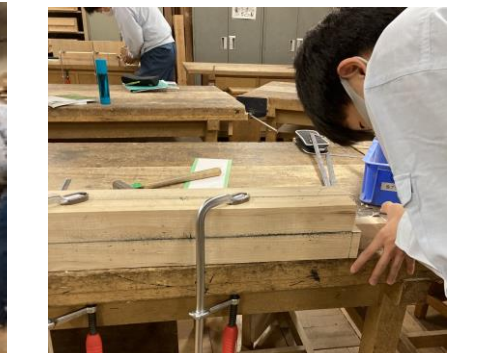
腰掛け蟻継ぎ加工終了時



「のこぎり」の使い方を、棟梁の実演をよく見て、切る音を覚えて自分も行います。



「のみ」の使い方も、棟梁の実演を見て、少しずつ削ります。最後の組み合わせる調整にも使います。

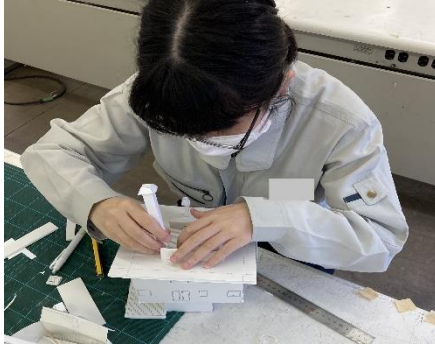


## 1年 工業技術基礎 「造形:スチレンボード模型」

吉村順三先生設計の「軽井沢の山荘」について、学んだ後、スチレンボードを使用した建築模型をつくりました。



↑ 実際の軽井沢の山荘



模型をつくることで、図面を見るだけではわからない空間を目で見て考えられるようになります。

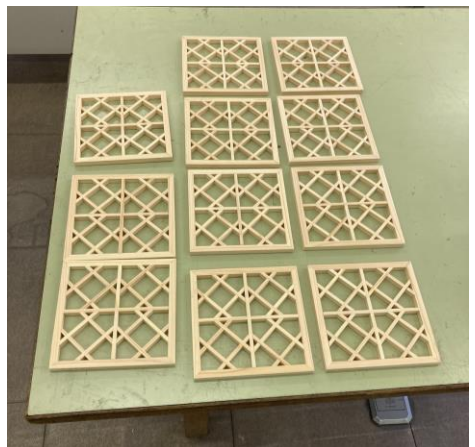
## 1年 工業技術基礎

### 「造形:建具～組子制作を通して日本のデザインを学ぶ」

建具マイスターであり、現代の名工である友國先生と杉村先生から、指導を受けました。日本ならではの建具や使用道具について知り、組子の「ますつなぎ」の制作を行いました。



かんなの使い方も学びました。



生徒がつくった組子

## 1年 工業技術基礎 「測量」

平板・レベル・トランシットという測量器械を使用して、距離・高さ・角度を測ります。実際の建築現場でも使われている高価な器械も使用して行います。



## 1年 建築製図

入学してから、製図で使用する文字の書き方、線の引き方から学び始め、徐々に建築図面に取り組んでいきます。

